TOKYO ink

CORPORATE PROFILE

東京インキ株式会社 会社案内

TOKYO ink
東京インキ株式会社

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C012860

VEGETABLE OIL INK

40
バイオマス
印刷部位：インキ
No.200162

この会社案内の印刷には、当社の油性枚葉印刷機用インキ『ジップセット　ニューセルボ®』を使用しています。

Our Purpose

「伝える」「彩る」「守る」ことで、豊かな未来を実現する

トップメッセージ

パーパスを浸透させ、バリューを実践することで、持続可能な価値を提供し続けます

東京インキは1923年12月に印刷インキ製造を目的として創立されました。その後、祖業であるインキ事業で培った経験や技術を活かし、プラスチック着色剤や機能剤を主とする化成品事業、さらにはプラスチック成形品やフィルムを主とする加工品事業へと事業を展開し、「伝える」「彩る」「守る」といった、“世の中になくてはならない3つのこと”を提供し続けることで、色彩総合化学メーカーとして、発展・成長してまいりました。
当社グループは『「伝える」「彩る」「守る」ことで、豊かな未来を実現する』をパーパス（存在意義）に掲げております。色彩を軸に、インキやプラスチックに代表される化学品を扱う当社グループは暮らしの中でなくてはならない製品を提供し続けてまいりました。現在の地球環境やライフスタイルの変化に対応し、これからも人々の生活の質の向上・充実のための「伝える」製品、「彩る」製品および気候変動、食品ロスなどの社会課題を解決するための「守る」製品を提供し続けることで、豊かな未来の実現を目指してまいります。

代表取締役社長
堀川　聡

伝える

人と人との間をつなぎ、
「伝える」ことで、これからも暮らしに
貢献していきます。

彩　る

身の回りを「彩る」ことで、
これからも我々の生活を
豊かにしていきます。

守　る

地球や我々の生活を
「守る」ことで、これからの社会に
貢献していきます。

MISSION

ミッション

色彩を軸に、

市場が求める価値を

お客様と共に創造、

実現し続ける企業。

私たちは100年に亘って築き上げてきた基盤技術を基にした競争優位性のあるコア技術と事業を展開するために必要な要素技術を獲得してきました。それらの技術を強みとして、インキ事業、化成品事業、加工品事業の3事業を主要事業として展開しています。
これらの事業を通して幅広い市場や用途に対して、人々の暮らしの中に必要とされている「世の中になくてはならない製品」を提供し続けています。

東京インキは5つの技術基盤を基に幅広い製品分野を支え、

人々の暮らしや環境を彩り守ります。

彩ることで人々の生活を豊かにし、なくてはならない存在に。

5つの基盤技術

- 顔料分散技術
- 材料配合技術
- 混錬技術
- 成形加工技術
- 分析評価技術

3つの事業領域

インキ事業

オフセットインキ、グラビアインキ、インクジェットインクを中心に、地球環境の保全に貢献する高機能、高品質なインキ製品を提供しています。

P.05

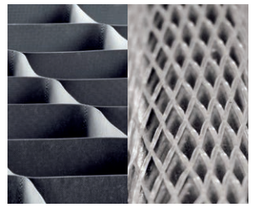
化成品事業

プラスチック用に色彩や機能を付与するマスターバッチなどの各種高機能製品を、さまざまな生活シーンに向けて提供しています。

P.07

加工品事業

特徴ある加工技術を駆使したプラスチックネットや一軸延伸フィルムを中心に、さまざまな用途の包装資材、工業・農業資材、土木・環境資材を提供しています。



P.09

インキ事業

人々の暮らしを豊かにし、環境に配慮した高機能・高品質インキを開発

オフセットインキ、グラビアインキを中心に、地球環境の保全に貢献する高品質、高機能、高付加価値製品の研究・生産・販売活動に取り組んでいます。
また、各種印刷補助剤、機能性コーティング剤や、印刷関連資材も取り扱っています。
近年では、印刷業界の業態変革に伴い、インクジェットインクなどのデジタル印刷対応の製品群にも注力しています。

オフセットインキ

折込チラシ、パッケージ、書籍、新聞等紙を媒体とする印刷用インキを提供しています。オフ輪・枚葉・紫外線硬化型(UV)インキ、印刷に必要な補助剤等の環境負荷低減製品や印刷関連資材も幅広くラインナップしており、お客様のさまざまなご要望にお応えします。

グラビアインキ

食品用パッケージやトレー、紙袋や包装紙、医薬、生活雑貨等さまざまな分野に対して、印刷用インキやコーティング剤を提供しております。環境に配慮しバイオマス原料を使用したインキやデザイン性に優れた意匠性インキ、印刷物にさまざまな機能を付与するコーティング剤等を取り揃え、お客様の幅広いニーズにお応えします。

インクジェットインク

デジタル時代に合わせ、高機能かつ環境対応が求められる分野で、インキやプラスチック着色剤の開発で培った独自の分散技術を駆使し、グラフィックスから産業用途まで、幅広い用途に対応したカスタムメードインクジェットインクを供給しています。

SUSTAINABLE

サステナブル対応製品

ライスインキ：PULPTECC／LAMITECC

国産のバイオマス原料である米由来の非食用油分を活用し、環境調和型のグラビアインキを開発しました。この材料を用いて、グラビアインキ用樹脂を合成し、独自の処方と生産技術を組み合わせることで、従来の石油由来インキに匹敵する性能を備えた裏刷り用ラミネートインキと、表刷り用非ラミネートインキの製品化を実現しました。

高バイオマスオフ輪インキ：ウエブアクタス ガイア® VLC

乾燥性能面からバイオマス度を上げることが困難だったオフセット輪転インキにおいてバイオマス度60%以上を実現、オフ輪印刷の乾燥工程で排出されるCO_2の100%カーボンニュートラル化に成功しました。

CHEMICAL

化成品事業

分散・加工技術を生かして、多様化するプラスチック分野のニーズに対応

プラスチック分野において、高度化、多様化していくニーズに対応すべく、当社の分散技術・加工技術を生かしたマスターバッチ、コンパウンドをはじめとする各種製品の提供に取り組んでいます。

マスターバッチ

リキッドマスターバッチ

ドライカラー

自動車・家電・包装容器・フィルムなど、さまざまな用途や成形条件、使用樹脂に対応した最適な着色剤を提供しています。さらに、プラスチックが本来持つ「紫外線による劣化」「燃焼しやすさ」「帯電しやすさ」といった課題に対し、耐候性・難燃性・帯電防止性の機能を付与する添加剤マスターバッチを開発・提案しています。これにより、外観だけでなく「目に見えない部分」においても当社製品が高い機能性を発揮し、お客様の製品価値向上に貢献しています。

SUSTAINABLE

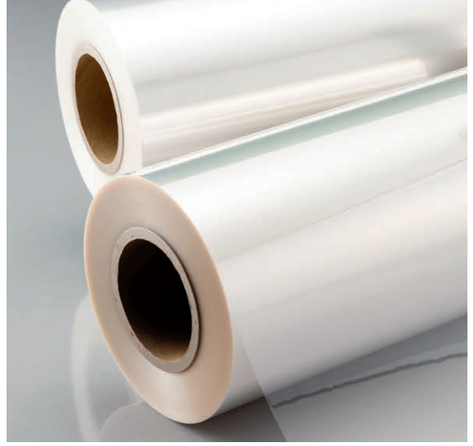
サステナブル対応製品

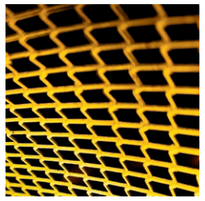
リキッドカラー：HiFormer®

従来の加熱押出工程を必要としないHiFormer®は、着色マスターバッチ製造時の電力使用量を最大98%削減可能です。さらに、成型時のロス削減や現場作業の省人化にも大きく貢献し、成型工程全体の効率化とともに、サプライチェーン全体のCO_2排出量削減にも寄与する、持続可能な着色ソリューションです。加えて、リキッドカラー専用の自動供給装置「スマコフ」と併せて導入することで、安定した微量供給が可能となり、精密で再現性の高い色調管理を実現します。

リサイクル成形加工助剤／マテリアルリサイクル用相容剤マスターバッチ

持続可能な社会の実現に向けて、再生プラスチックの活用を支える各種添加剤マスターバッチの開発に取り組んでいます。リサイクル樹脂の成形時に生じやすい熱劣化による焼けや変色を抑制し、加工性を向上させる機能性添加剤や、マテリアルリサイクル時に混合される異種樹脂間の相容性を高める相溶化剤など、多彩な製品をラインナップしています。これらのソリューションを通じて、再生プラスチックの品質安定化と用途拡大を支援し、プラスチック循環型社会の実現に貢献しています。





PRODUCT

加工品事業

さまざまな産業に対応した機能を持つ樹脂製品を製造

当社の基盤技術である分散技術を駆使したプラスチック材料を使用し、樹脂成形品や一軸延伸、押出（回転・異形）成形技術を応用した樹脂加工品の開発・製造に取り組んでいます。また、新しい分野への製品提供を目指した各種製品の開発・製造を推進しています。

包装資材

青果物、水産物、お菓子、コイン、パウチ等の包装に使用されているプラスチックネット（ネトロン®包装材）や一軸延伸フィルム（ハイブロン®、ノーブレン®）等、独自の加工技術による幅広い分野での包装資材の提案・提供に取り組んでいます。

工業・農業資材

回転異型成形技術、配合技術を駆使したろ過フィルター流路材、支持材等のネトロン®工業資材、さまざまな加工技術を組み合わせることで農作物の育成をコントロールする農業用資材等、一軸延伸技術による高強度フィルム（ハイブロン®、ノーブレン®）や機能性通気フィルムへの展開等、幅広い分野における各種樹脂加工品の提供に取り組んでいます。

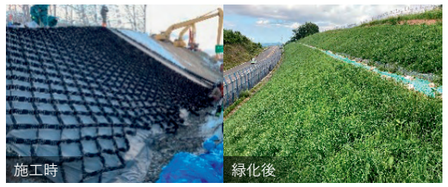
土木・環境資材

成形加工品ジオセル（テラセル®／グランドセル®）を中心に、災害復旧、防災対策、のり面補強、軟弱路盤補強等さまざまな用途の土木・環境資材を提供しています。資材提供だけでなく、状況に応じた各種工法と資材を一括提案することで、付加価値の高いソリューションを提案しています。

SUSTAINABLE

サステナブル対応製品

ジオセル（テラセル®／グランドセル®）のり面保護工法



ジオセルはプラスチックシートを立体形成した、ハニカム状土壌安定枠となります。ジオセルをのり面に設置し、中詰材を充填することで、のり面の浸食対策と緑化の両立が可能になります。コンクリートを使用する工法に比べ、軽量であるため搬送の負荷が軽減でき、CO_2排出の低減に貢献、施工性にも優れています。集中豪雨などの影響により不安定になっている道路のり面の復旧に貢献します。

多層断熱被覆資材：EKエナジーキーパー®

農業ハウスで作物を栽培するにあたり、光と熱が大きく影響します。EKエナジーキーパー®は種々の素材を複合的に組み合わせて、特殊な縫製加工をすることで、抜群の遮光性と断熱性を付与した多層断熱被覆資材（布団資材）になります。光と温度に敏感な作物の栽培に適しており、軽量であるため、作業性にも優れています。周年利用時の冷・暖房費の大幅な削減に貢献し、また、環境負荷低減に寄与します。（EK普及拡大事業「みどりの食料システム戦略」農林水産省認定）

サステナビリティ

持続可能な未来を目指し、事業活動を通じて環境・社会課題の解決に貢献します。

マテリアリティ（重要課題）

東京インキグループのマテリアリティ（重要課題）

持続可能な社会（サステナビリティ）の観点からみたメガトレンド、「リスク」と「機会」を踏まえた上で、当社グループのパーパス（存在意義）と照らし合わせた上で、2030年に目指す姿からバックキャストし、4つのマテリアリティ（重要課題）に集約しています。

特定したマテリアリティ

1 製品・サービスを通じた持続可能な社会に対する価値の提供

2 環境・社会と共存共栄する企業経営の推進

3 高効率で安定した企業基盤づくり

4 新たな価値を創造できる人材の創出とマインドの醸成

東京インキはサーキュラーエコノミーの実現を目指して環境負荷低減製品や社会貢献製品の製造に取り組んでいます。

製品情報はこちらから

社会貢献活動

基本的な考え方

東京インキグループは、『「伝える」「彩る」「守る」ことで豊かな未来を実現する』というパーパスのもと、当社方針の中のサステナビリティ上の重要課題を実現するため、事業活動を通じた社会への貢献に加え、良き市民企業として地域社会との信頼関係を深め、持続可能な社会に貢献する活動に取り組んでいます。

重点分野

環境保全

企業活動や地域社会に広範な影響を与える環境課題の解決に貢献します。

次世代育成

次世代の人材の育成を支援し持続的な社会全体の成長や発展に貢献します。

地域社会

地域社会が必要とする支援を行い、お互いの共存共栄に貢献します。

地域・社会貢献活動事例

1 フードドライブ活動

2 職業体験の実施

3 地域イベント・チャリティ活動への参加

4 子供施設への支援訪問（タイ）

会社概要

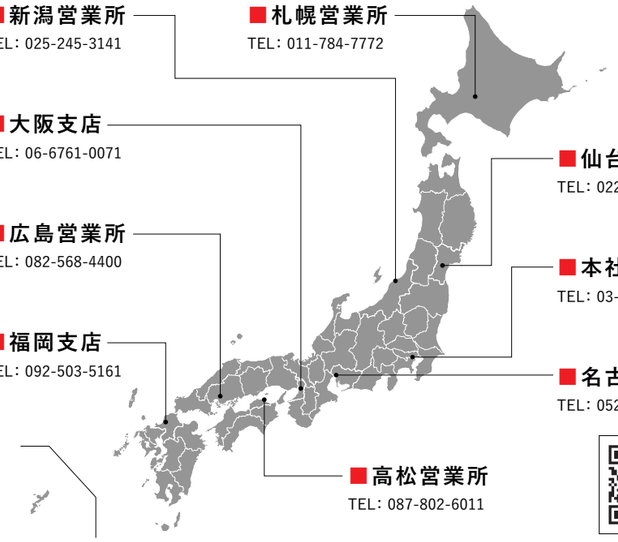
東京インキ株式会社 TOKYO PRINTING INK MFG. CO., LTD.

https://www.tokyoink.co.jp/

資本金　32億4,612万円

東京証券取引所 スタンダード市場上場（4635）

拠点



■新潟営業所
TEL：025-245-3141

■札幌営業所
TEL：011-784-7772

■大阪支店
TEL：06-6761-0071

■仙台営業所
TEL：022-274-3531

■広島営業所
TEL：082-568-4400

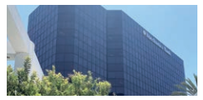
■本社
TEL：03-5902-7651

■福岡支店
TEL：092-503-5161

■名古屋支店
TEL：052-331-1515

■高松営業所
TEL：087-802-6011

海外拠点



■東京インキ株式会社 U.S.A.

■東京油墨貿易（上海）有限公司

■東京インキ（タイ）株式会社

国内工場

■吉野原工場
TEL：048-663-0311（案内台）

■羽生工場
TEL：048-565-3751（代）

■土岐工場
TEL：0572-57-8161（代）

■大阪工場
TEL：072-858-1201（代）

技術体制

様々な色材を軸に発展してきた当社グループの技術は、5つの基盤技術から成り立っています。これらの基盤技術は競争優位性のあるコア技術を支え、幅広い分野の要求に応える製品を開発しています。

■5つの基盤技術

顔料分散技術　材料配合技術
混練技術　成形加工技術
分析評価技術

研究開発

これからの環境やエネルギー問題を解決する重要な分野に存在するたくさんの技術課題に貢献すべく、従来の基盤技術の進化・深化と研究・技術開発を推進しています。3つの要素技術を応用・発展し、材料開発を行っていきます。

■開発研究要素技術	■応用技術
粒子合成	ナノ粒子
顔料誘導体	機能性色素
樹脂合成	機能性樹脂

沿革

1916年
・資本金5万円を以て東京都豊島区巣鴨に合資会社日本油脂工業所の名称により油脂より印刷インキ製造までを目的として設立

日本油脂工業所正門

1923年
・資本金50万円の東京インキ株式会社を設立し、合資会社日本油脂工業所の業務一切を継承
・初代社長に大橋光吉が就任

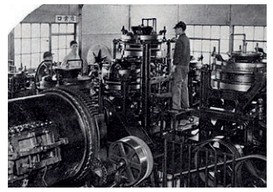
1930年
・グラビアインキの製造開始

創業者　大橋光吉

1937年
・東京都豊島区巣鴨の本社を北区田端新町に移転

1946年
・埼玉県大宮市（現さいたま市）に顔料工場を新設、全般顔料の自製を開始

1953年
・化成品事業に進出


田端グラビアインキ工場

1961年
・東京証券取引所株式市場第2部に上場

1963年
・グラビアインキおよび化成品事業の主力工場として、埼玉県大宮市（現さいたま市）に吉野原工場を新設

1968年
・化成品事業の拡大に伴い、大阪府枚方市に大阪工場を新設

1981年
・田端工場に平活版インキ工場を新設

羽生工場

1986年
・オフセットインキの主力工場として、埼玉県羽生市に羽生工場を新設

1987年
・アメリカ合衆国カリフォルニア州に現地法人東京インキ㈱U.S.A.（現連結子会社）を設立

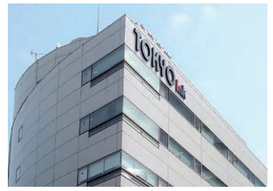
1991年
・岐阜県土岐市に土岐工場（現クリーン工場）を新設
・宮崎県都城市にトーイン加工㈱（現連結子会社）を設立

タイ工場

1999年
・東京都足立区の林インキ製造㈱（現連結子会社）を子会社化

2006年
・中華人民共和国上海市に現地法人東京油墨貿易（上海）有限公司（現連結子会社）を設立

2010年
・タイ王国バンコク市に現地法人東京インキ（タイ）㈱（現連結子会社）を設立
・本社所在地を東京都北区田端新町から東京都北区王子に移転
・千葉県野田市のハヤシ化成工業㈱（現連結子会社）を子会社化



本社（TIC王子ビル）

2021年
・埼玉県加須市（現本社所在地 東京都北区）の荒川塗料工業㈱（現連結子会社）を子会社化

2023年
・創立100周年を迎える

世界を彩り、豊かな未来へ。